

北アルプスから安曇野での桜育成の条件と実績 —百楽桜について—

草間 勉*

はじめに

1965年から信州で生活して、1981年12月の豪雪被害がきっかけになり、エドヒガンとオオヤマザクラの交雑で生じた田淵行男氏ゆかりの百楽桜を生育へ展開し、それに加えて実生の桜の苗から森上桜と面影桜、名残桜、姫福桜を生育できた。以上から、その間に手にした桜育成理念と育成写真資料を提し、その育成にかかわる考察を試みようと思う。

桜育成条件の理念と状況

育成条件の理念図

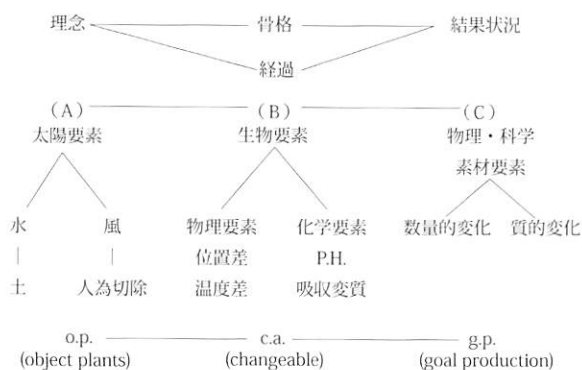


図1 生育条件の理念図



写真 No.2 田淵行男記念館入口南 25年木
成長良好



写真 No.3 安曇野ビレッジ 35年木



写真 No. 1 変型成長木 田淵行男記念館 35年木
高成長樹型 横張枝樹型
土が深いので高くのびた。



写真 No.4 標準成長木 大町市平野球場東側 35年木

* 草間 勉 〒398-0002 長野県大町市大町 3627-4



写真 No.5 変型生長木 白馬村貞麟寺百楽桜原木
45 年木
東方向と南側に日照さえきる条件があるため、樹高が大きくなった。直径が太い。



写真 No.6 変型生長木 大町市カマド神社入口
45 年木
東側の日当たりが悪いため樹高が伸びあがり大木に育っている。

表 1 写真の百楽桜の生育状況説明数値一覧表（2017 年 1 月 20 日調べ）

No.	場所	生育特性	樹齡 (年)	高さ (m)	胸高直径 (cm)	枝張長 (m) 方向 N－S	特徴事項
1	田淵館入口北	高い木	35	8	45	6－6	土が深いので高くのびた。
2	田淵館入口南	低い木	25	5	34	7－7	枝も根も横にのびてすごい。
3	安曇野ビレッジ北	中位の木	35	6	33	5－5	根元近くから枝分かれて育った。
4	大町平野球場北	中位の木	35	4	28	4－4	標準生育木
5	白馬貞麟寺前原木	高い木	45	9	64	6－8	光の条件が悪いがよく育っている。
6	大町カマド神社入口	高い木	35	8	18	3－3	塔や他の樹木のかげで光の条件が悪い。

樹型と根型が桜の樹型におよぼす状況

先の百楽桜の写真 6 枚を比較して、標準的な生育条件と変型生育樹木例のものは、樹高がかなり大きく伸びたり、土条件や水分供給条件の影響がみられた。百楽桜では、生育変型がはっきり見える。これは、生育条件への順応性が大きいといえる。これは、日本で数百年の歴史をもつ、庭園栽植や盆栽化栽培にいかされていたわけで、日本人の感情順応性に敬意を持ちました。

まとめ

桜に特別な興味感動まで持って取り組んだり、また 50 年もの年月を経過した今も初心が変わらずというより、以前にも増して強くなっている。その原因は桜の生きざまの魅力によっていました。特に信州北アルプス山麓自生の野生桜の多様性と生命持続の営みに目を見張ったからです。このまとめ方で自分の意図するものを理解してもらえたか心もとないのですが、よろしくお願いします。